

昭和27年11月26日 第3版 読者サービス (日刊) 読者サービス部 2012年

第2194号



区割り勤告期限延長へ 2  
 シリア難民ルポ 7  
 大阪教育条例案特集 36  
 麻工場 大麻プラント化 39  
 瀧川昭雄さん「時代の証言者」 15

国際 6 7 経済 8 9  
 基・特異 12 経済 12 13  
 気流 15 解説 17 文化 19  
 読活 21 家庭 22 23  
 小説 23 わいず倶楽部 25  
 スポーツ 24 25 27

THE YOMIURI SHIMBUN

# 読者新聞

2012年(平成24年)

2月14日 火曜日

人の心を癒やし、歴史のロマンを感じさせる古郷。奈良の興福寺、薬師寺など国内だけでなく、モンゴルや香港でも寺の修復・新築に携わってきた宮大工棟梁の瀧川昭雄さんが、古建築を後世に伝える意味を語る。

編集委員 河合敦

奈良を訪れたことのある方は、たぐさらいらっしゃると思います。

奈良のシンボルと言え、東大寺の大仏と興福寺の五重塔でしょうか。その興福寺で、私の会社が仏さ

## 時代の証言者

### 寺を建てる 瀧川昭雄 78 ①

んを安置する「中金堂」を建てています。工事進捗具合はそうですね、3分の1くらいですか。2018年には朱色のお堂が完成しますよ。

▲興福寺の歴史は669

年、大化の改新で有名な藤原鎌足の夫人が、夫の病氣回復を願い京都に建立した山階寺に始まる。710年の平城京遷都に伴い、奈良市の現在の場所に移され興福寺となる。藤原氏の氏寺

# 1300年前の興福寺中金堂



興福寺中金堂の工事現場を見回る瀧川さん

1933年（昭和8年）奈良県桜井市生まれ。瀧川寺社建築会長。中学卒業後、祖父、父の跡を継いで宮大工に。奈良県を中心に海外でも寺社建築に携わる。2007年に第2回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞受賞。

で、宗派は法相宗▼

中金堂も他の伽藍同様、

1300年前の奈良時代に

建てられたんですわ。でも、

平家の焼き打ちなどで7回

も焼失しました。江戸時代

に仮堂が再建されました

が、あくまで仮ですからな。

興福寺さんも、創建当時の

ような中金堂を再建しよう

となったのです。

私は62年の宮大工人生

で、100棟以上の寺社を

建ててきましたが、古い建

物の再建は、毎回大変です。「様式」「素材」「技術」の三つが全部そろわなできしまへん。

まずは様式ですが、奈良

時代の人は図面を残してく

れません。したので、わか

りません。そもそも当時は、

図面という考えもなかった

んでしょな。

そこで、基壇の発掘調査

や類似調査から創建当時の

姿を推測するんです。類似

調査とは、近い時代の建物

を調べることで、薬師寺や

唐招提寺で行いました。そ

の結果、中金堂は単層で裳

階（ひさし）付きの寄せ棟

作り、瓦葺きの天平様式

となったのです。

素材とは、木のこです。

東大寺南大門などの柱を見

ればわかりますが、古建築

は直径80センチ以上の太い木を使っています。残念ながら、日本にはあのような大木はもう残っておりません。幸

い、中金堂用には、アフリ

カ産とカナダ産の大木を見

つけることができました。

技術は人、宮大工ですわ。

私は30年前から若い宮大工

を仕込んできましたので、

この現場でも34人が働いて

おります。

このように、三つそろわ

ないと古建築はできません。

様式は法隆寺や薬師

寺など白鳳、天平時代の

お手本があります。素

材と技術はちょっと心配

な状況です。そのあたりの

話は、おいおいさせてもら

います。

（この連載は、月々木曜

日と土曜日に連載します）

先月、奈良市の小学生と父母を前に、宮大工の仕事のテーマで講演しました。

その時、「普通の大工との違いは何ですか」と聞かれました。宮大工について、あまり知られてないようですので、説明しましょう。

大工は人の住まいを、宮大工は仏像を雨風から守る「覆い屋」、つまりお寺を建てます。お寺は宗教施設であるとともに、文化財でもあります。また、国宝や重要文化財に指定された古いお寺の修理では、伝統的な姿形のまま残さなければなりません。そこで、大工

②

# 宮大工 ルーツは2500年前

とは仕事のやり方もだいぶ違ってくる。

そもそも、宮大工のルーツは約2500年前の中国に生まれた魯班という人にさかのぼります。宮大工の間では、魯班がインドに渡って学んだ建築技術は、朝鮮半島を経て、飛鳥時代に高句麗の僧慧慈と百済の僧慧聰によって伝えられたとされています。

実際には、寺工と呼ばれるれた半島出身の技術者たち

が日本人に教えたと思うのですが、高僧も仏教の教義だけでなく寺院建築の知識も持って

いたんでしょう。

飛鳥時代に来日した慧慈と慧聰は、当時の権力者蘇我馬子が596年に建立した日本最古の本格的寺院「飛鳥寺」の造営を支援したとされる。また、慧慈は聖徳太子の師となり、仏教を教えた。われわれ宮大工は、飛鳥時代に大陸からもたらされた伝統を現在まで引き継い



槍ガンナで木材を削る瀧川昭雄さん(左)と弟の幸男さん

削ると表面に微妙な凹凸ができ、味わい深くなります。古いお寺の柱は、だいたい槍ガンナ仕上げですので、機会があったらじっくり見てください。

ほかに宮大工だけの技術はいろいろあるのですが、規矩術ははずせません。大工の七つ道具の一つに、直角に曲がった金属製の物差し(のこ)の曲尺があります。その曲尺で測って、直線はもろろん、曲線や円など複雑な形に木材を加工するのが規矩術です。

例えば、円を作るにも最初8角形にして、16角形、32角形、64角形と角を増やしていき、最後に角を削ってきれいな円を作ります。一般の住宅を建てるのに規矩術は必要ないかもしれま

せんが、曲線や複雑な木の組み物からきている寺院建築は、規矩術を使わなければできません。

質問と答えは、「なぜ、寺大工と言わないのか」という声もよく聞きます。神社も建てますが、仕事の中心は寺院ですのでねえ。まあ、自然な疑問ですね。

江戸時代は「伽藍大工」「堂宮大工」とも呼ばれていたようです。明治の廃仏毀釈の影響かなとも思いますが……。どなたか、研究してもらえませんか。

▲明治政府が1868年に発した神仏分離令などにきっかけに、民間では寺院や仏像の破壊、仏事の禁止などの廃仏運動が起こり、仏教界は打撃を受けた(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者

私は1933年(昭和8年)、奈良県桜井市で宮大工の父卯治郎と母イトエの長男として生まれました。姉と弟5人の7人兄弟です。

桜井市は奈良盆地の東南部で、平野が山間部に変わるあたりにあります。東に行けば、三重県の松阪や伊勢へ出られます。

昔から私の家は街道沿いであり、江戸時代には質屋と粉屋(製粉業)を営んでいたようです。お伊勢参りに向かう旅人から質草を預かって、旅費を都合してたんですやろな。

③

# 祖父・父を追い職人の道

## お雄 昭

## 川 瀧

## 寺を建てる

瀧川家は祖父の菊松の代から宮大工を始め、私で3代目です。どうして祖父が宮大工になったのかは、よくわかりません。祖父は私が生まれてすぐ脳出血で亡くなってますので、もちろん聞けませんでしたが、父も知らなかったようです。

父は4人兄弟の次男でしたが、祖父の跡を継ぎました。父の仕事姿の最初の思い出と言えば、私が5、6

歳の頃でしょうか。大阪の四天王寺の五重塔の再建現場で、父に肩車をしてもらい足場を上ったことを覚えています。

今思えば、父は私に宮大工という仕事に興味を持たせようと思ひ、まだ小さいのに現場へ連れて行ったのかもしれない。



卯親の父親と母親のイトエさん(1960年頃)でつくられた自宅

いたそうです。当時は、たくさん日本人が中国大陸や朝鮮半島に住んでいましたから神社も必要だったんでしょう。

父から南京で神社を建てたと聞いていたので、後年、南京を訪れた際、通訳の人に聞いてみました。答えは「日本の神社は昔あったが、今は体育館になってる」とのことでした。その場所には行きませんが、当時の中国人たちが、どんな気持ちで神社を見ていたんだろうと思うと、複雑な心境になりましたわ。

ただ、父は中国の大工と職人同士、分かり合える部分もあったかと思ひます。一緒に写った写真を大事にしてました。

私も後に、中国やモンゴルなどへ行き、現地の大工たちと一緒に寺を建てましたので、その辺の気持ちはわかります。

中国やモンゴルの話はまた改めてさせていただきますが、外国の仕事を引き受けたのは、父がお世話になった恩返しの意味合いもあったんですよ。

父は、運良く終戦前に帰国できました。私が小学5年の時でした。軍属だったからでしょう。とにかくまじめな職人で、60歳の時、祖父と同じ脳出血で亡くなりました。

私は30歳で結婚したばかりでしたが、一番下が小学生の5人の弟がおりましたので、父親代わりもせざるを得なくなりました。

(編集委員 河合敦)

# 時代の証言者

▲四天王寺は法隆寺と同様、聖徳太子が593年に建立したとされる。五重塔は1934年(昭和9年)

近くの村々で神社を建てて

私は小学校6年生で終戦を迎えました。

戦争中は、ものがなく苦しい生活でしたが、幸い、父を始め親類はみんな帰国できましたので、恵まれていた方だと思います。

戦争中のある日、地元出身の陸軍のパイロットが小学校へ来て講演をしてくれました。話の内容は忘れませんが、一緒に帰った道すがらパイロットから「困った時は反対のことをやれ」と言われ、妙に納得したことを覚えてます。

戦後、民間住宅の復興需要が高まり、住宅建築に転

4

# 中学から父の手伝い

お雄

お昭

## 雄川 昭 雄 寺を建てる

向した宮大工も多かったのですが、私は寺社建築で行こうと思いました。あのパイロットの言葉も影響しているのかもしれない。その人は講演から10日後、台湾沖で戦死したそうです。終戦後の思い出もあります。

ある日、親から塩を買ってこいと言われました。角砂糖の倍ほどの大きさの「角塩」です。それを買いに行くのはいいのですが、近鉄電車に乗って、一人で大阪の鶴橋へ行けというのです。電車に乗って行けると言われ、出かけたのですが、家から2時間くらいかかりましたかなあ。当時、鶴橋には闇市があった。電車が駅に近付くと、乗客が米や野菜を包んだ荷物や車を車外へ放り投げるんです。すると、線路沿いで待っている人がさうと回収していきま

す。駅まで持って行く

と、闇物資は警察に没収されてしまうからですわ。1946年3月3日、インフレ抑制のため物価統制令が発令され、商品ごとに統制価格が決められた。これを超えることは禁じられたが、極端な物不足から

各地に「闇市」ができ、商



2歳の頃の瀧川さん(左)。姉のきんさんと

品は統制価格をはるかに超える値段で売買された。戦後の混乱で、鶴橋周辺も結構物騒だったと思うのですが、よく子ども一人で行かせたなあと思います。もっとも、本人は特段怖いとも思わなかったですわ。小さい頃から冒険好きで、近所の山中を探検するのが大好きでしたから。

鶴橋へのお使いで、駅のホームから大阪の街を一望した時の情景は忘れられません。空襲で一面焼け野原となった中で、ぼつんぼつんとお寺の白壁の蔵が残っていました。

「ああ、戦争の後でも残るもんがあるんやなあ」そう思い、後世まで残る寺社を建てる宮大工という仕事を強く意識しました。宮大工になろうとはっきり思った瞬間だったかもしれませぬ。実は、その前から漠然と宮大工になるんだらうなと思っていました。近所や親類の大人に「跡を継ぐんな」と言われ続けていましたし、長男ですので「そういうもんやろな」くらいでした。でも、鶴橋へのお使いの後には、自分から「宮大工になるんだ」という考えに変わりました。そうなる、行動も変わってきますな。中学生になると、休日は仕事場で父親の手伝いをしました。強制されたものではありません。少しでも仕事を覚えようと思ったからです。

(編集委員 河合敦)

# 時代の証言者

1949年(昭和24年)

3月に桜井中学を卒業すると、翌日から父について工事現場に出ました。大工見習いになったんですわ。

ただ、中学時代も休みに仕事を手伝っておりましたんで、現場には気負いなく入っていました。

最初の現場は、国宝の元興寺極楽坊禅室(奈良市)の修理でしたが、印象深いのはむしろ、翌年からの薬師寺東塔(同市)の修理ですね。現在、東塔は解体修理に入ってますが、昭和20年代の修理は部分的なものでした。最上階の屋根から

5

# 薬師寺東塔 19歳の落書き

雨漏りがしたんです。

▲薬師寺は、天武天皇が680年に皇后(後の持統天皇)の病氣回復を願って建立を発願した。東塔は730年に建てられた国宝で、高さ約34呎。三重塔だが、裳階が三つあるため一見、六重塔のように見える。解体修理は2008年12月に終了予定▼

若かったんで、はりきって高い足場の上を動き回っておりましたわ。屋根の頂

上に立つ金属製の飾りを「相輪」と言いますが、これを職人の職人と一緒に取り付けました。薬師寺では、仕事以外でも楽しい思い出があります。若いお坊さんたちと野球チームをつくり、仕事が終わるとキャッチボールをしたものです。私はキャッチャーで、ピッチャーは後に薬師寺管主となられた高田好胤さんです。

高田さんは98年に亡くなりましたが、生前



薬師寺東塔の足場の上で、一人をとる19歳の瀧川さん

高田さんは、いいタマ投げましたでえ。よく、法隆寺のチームと試合をしました。そう言えば、つい先日、薬師寺から「瀧川さんの作品でしよう」との伝言付きで封筒が届けられました。「何やら」と思って開けたら、「瀧川昭雄 19歳」と墨で書かれた板の写真でした。私が昔、東塔の屋根裏に書いた落書きが、解体修理で見つかったんですな。ほかにも誰かが書いた「外務大臣 吉田茂」なんてのもありました。昔から、宮大工は見えない部分に落書きをしたもんです。おおらかな時代でした。もう時効で許してもらえないでしょう。

若い頃、野球や落書きばかりしていたのではありませんよ。もちろん、仕事は真剣にやりました。いつも、「次は何を、どうやってやるのか」と考えておりましたから。

例えば、天井板を選ぶのでも人より早く選べば、節のない板を手にもでき、仕事はほかどります。前日に道具の手入れをしておく、休憩の時は次の手順を考えておくなどは当たり前です。仕事のできた先輩はみんなそうしてました。誰も教えてくれませんが、立ち居振る舞いから道具の使い方までまねて覚えるのです。それが、職人の世界です。まあ、最近はそのとばかりも言っていない時代ですが……。

(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者



宮大工になって9年目の  
1958年(昭和33年)5  
月、生涯にわたり、師と仰  
ぐ人に出会いました。

宮大工ですから、師匠も  
宮大工だと思われるかもし  
れませんが、実は学者先生  
なんですわ。規矩術の選定  
保存技術保持者で奈良大学  
の教授をされた岡田英男先  
生です。

その頃、私は奈良県葛城  
市の当麻寺本堂(国宝)の  
解体修理に加わり、当時、  
奈良県の技師をしていた岡  
田先生もいたのです。私よ  
り4歳上でした。後に私も  
技師をやりましたので、そ

⑥

# 生涯の師匠は学者先生

お雄  
あき昭

川  
たきがわ

る  
て  
建  
寺

の役割はまだ改めて説明し  
ますが、まあ、現場のリー  
ダーのような存在ですね。

▲当麻寺は白鳳時代の6  
81年に創建された。本尊

は、奈良時代に藤原家の中  
将姫が、目にした極楽浄土

の光景を蓮の糸で織り上げ  
たとされる当麻曼荼羅。民

俗学者の折口信夫は、この  
中将姫伝説をモチーフに小

説『死者の書』を書いた。▼  
修理で私は、本堂に隣接

し、仏さんにお供えをする

専用の建物の「原寸引き付  
け」をやらされ大変でした。  
この原寸引き付けは、宮大

工特有の工法ですのちょ  
っと説明しましょうか。

寺でも住宅でも、図面を  
引くのは同じです。でも、

宮大工はさらに、大きなベ  
ニヤ板の上に各部分の実物

大の図面を描くんですわ。  
それに合わせて型を取り、

その型を木材に当てはめて  
加工するんです。

何でかと言いますと、実

物の何十分の一しかない紙

の図面だけで建てるのと誤差  
が出て、うまくかみ合わな  
い部分が出てしまうからで  
す。

パーティーの席上、談笑す  
る岡田英男先生(左)と瀧  
川さん(1999年頃)



岡田先生は、私の原寸引  
き付けの仕事ぶりを認めて  
くれたようです。それ以来、  
何かと目をかけてくれ、木

材の製材担当に回してくれ  
ました。1年間みっちり製  
材をしたおかげで、木の癖  
や性質などがよくわかりま  
した。この経験は、後々大  
変役に立ちました。宮大工  
は木を知らなければできま  
せんから。

岡田先生との付き合い  
は、2000年に岡田先生  
が脑梗塞で亡くなるまで続  
きました。いろいろ教えて  
もらいましたが、「2番は  
ビリと一緒。1番はなれ」  
との言葉が印象的です。岡

田先生は海軍兵学校出身で  
すので、多分、海軍兵学校  
精神から出た言葉でしょう  
な。私も、1番になれば一  
番いい仕事が回ってくる、  
と思いつつ頑張ったもんで  
す。

東京生まれで海軍兵学校

を出た岡田先生は、終戦後  
大好きな古建築を横浜工業  
専門学校(現横浜国立大学)  
で学んで奈良へ来られました  
。後に東大で博士号を取  
得し、論文や専門書をたく  
さん書かれました。

努力家の岡田先生は、頭

の固い学者ではありませ  
んでした。宮大工に対しても  
「お互い、知ってることを  
教え合おう」と言っ、よ  
く、木のことなどを聞いて  
きました。私も規矩術につ  
いて尋ねたものです。

知識については、学者の  
方が多いかもしれませ  
んが、宮大工も経験に裏打ち  
された知識を持っていま  
す。そのことは、室生寺御  
影堂の解体修理で私が証明  
するようになります。

(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者

室生寺は、奈良県東北部（宇陀市）の山の中にたざんであります。深山幽谷に囲まれ、まさに聖地の趣いっぽいお寺です。

元々は奈良時代の末期に山林修行を行う山寺として建てられ、その後、弘法大師・空海さんが開かれた高野山と同じ真言宗のお寺となりました。昔の高野山は女人禁制でしたが、室生寺は女性も参拝できましたので「女人高野」とも呼ばれ、多くの人が訪れました。その室生寺の御影堂（重要文化財）の解体修理を1975年（昭和50年）から

7

# 解体してわかった「履歴」

お雄 昭 川 瀧

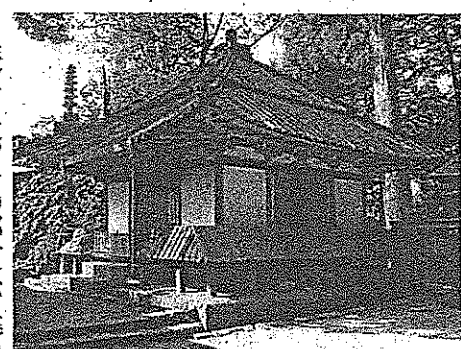
寺を建てる

行いました。御影堂は空海さんをお祀りしている建物で、室町時代前期に建てられました。そんなに大きいものではありません。幅、奥行きとも9丈、高さは8丈ほどのお堂です。

古建築の解体修理は、だいたい300年を目安に行います。建物をすべて解体し、腐ったり傷んだりした部材だけは新しく交換しますが、基本的に元の部材を使います。部分修理は状況

に依りますが、100年くらいごとでしょうか。御影堂も江戸時代の1706年に、大修理が行われていました。

御影堂を解体しますと、どうもおかしい部材がいっぱい出てくるんです。室町時代の



室町時代の創建当時の姿となった室生寺御影堂

「天文二十年（1551年）」と墨書きされた板きれや棒が屋根裏にばいと置かれていたり、部分的に周りと違う種類の木が使われていました。また、ノミ跡が明らかに違う部材もありまし

ていることがわかりました。解体当時の屋根はヒノキの皮の檜皮葺きでしたが、創建当時は板葺きだったことも判明したんです。

そこで、お寺と相談して創建当時の姿に戻すことにしました。檜皮より板の方が長く持ちますから。ただ、姿形を変える訳ですから、国の現状変更手続きを通らなくてはできません。昔の板や棒を抱えて新幹線に乗り、東京の文化庁へ説明に行き、了解を得ました。

現在の御影堂は創建当時と同じ姿です。板葺きのお堂は珍しいんですよ。平泉（岩手県）の中尊寺金色堂も板葺きです。解体をして、御影堂の「履歴」がわかったんです。外見や資料からだけではわからなかったことです。そうそう、御影堂修理の際、「職人の大先輩」とも言える人を見かけましたよ。写真家の土門拳さんが、雪化粧をした室生寺の撮影にいられていたんです。当時の土門さんは病気のため車いすで移動されていたが、シャッターを押す姿はさすがに迫力がありました。薬師寺の高田好胤元管主が「撮影の亡者」と言っていたのもわかるような気がしましたわ。

▲土門拳（1909〜1990）は、39年に初めて訪れた室生寺に魅せられ、以後、写真集『室生寺』『古寺巡礼』を出版するなど古寺巡礼の撮影をライフワークとする▼

（編集委員 河合敦）

## 時代の証言者



# 東大寺で24時間スト

8

前回、室生寺御影堂の解体修理についてお話ししました。1975年(昭和50年)ごろのことです。実は、その当時、私は奈良県の職員だったんです。

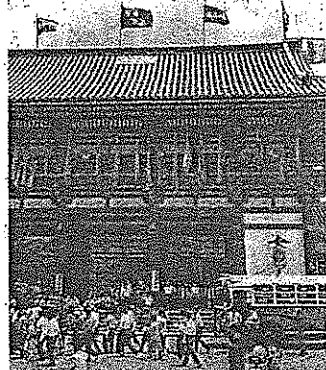
やってくる仕事は宮大工そのものですが、身分は公務員でした。ちよつとややこしいので説明しましょう。

室生寺修理より10年以上前の61年頃、東大寺(奈良市)の工事に参加していました。大仏殿に連なる回廊と中門の修理です。重要文化財の修理ですので、国や県の補助金も出て、給料は県からもらっていました。

## 時代の証言者

お雄 昭 川 灌 寺を建てる

ただ、給料は、民間に比べてえらく安いんですわ。宮大工だけでなく、左官屋さんや手伝いさんと呼ばれる作業員など職人みんな安いです。そつですな、宮大工ですと当時の給料の相場は月3万5千円くらいでしたが、県から出たのは月2万5、6千円でした。



川さんらのストで、赤旗や組合旗が立てられた東大寺中門。

いくら文化財保護のためと言っても、職人も生活があるわけですから、これでは低すぎると。最初、文化

庁に「上げてくれないか」と要求したんですが、「できない」とつれない回答でした。そこで、県と交渉を始めたんですが、こちらもなかなか「うん」とは言わ

しませんでした。当時、春闘が始まり賃上げ闘争が盛んでしたから「ならば組合を作ってスト

参加した」

支部長は宮大工の先輩の加藤久雄さんが務め、県教委に地方公務員並みの身分保障と賃上げを求めました。

額となりませう。私たちはこれを受け入れ、宮大工と手伝いさんの棟梁クラスの12人が順番に公務員となりました。私は63年に奈良県に「技能員」として採用されます。この

ライキで対抗しよう」との声が出て、みんな「じゃあ、やろう」です。

技能員は、工事現場で職人を指導する立場ですので棟梁とも呼べますが、本当の棟梁はさらに、金銭面も含めて寺や役所との交渉、報告書作りなどもやるものです。

▲労働組合が春闘に要求したんですが、「で、企業と交渉する日本独自の春闘は、55年にスタートした。年を追うごとに参加労働組、組合員は増え、61年春闘は、約500万人が参加した」

棟梁は、現場だけでなく工事計画全体に責任を持つ役割で、公務員では「技師」に当たり、私は74年に技師となりました。80年に独立するまで計7年間にわたって公務員人生を歩きました。(編集委員 河合敦)

参加した」

た。(編集委員 河合敦)

30歳から47歳までは、奈良県の職員として公務員生活を送ったのですが、前半の11年間は技能員として現場で働きました。身分は公務員でも、仕事の中身は宮大工という事ですな。

でも、41歳の時に大きな「変化」が訪れました。技術職の技能員から行政職の技師に変わったんですわ。行政職ですから、現場と掛け持ちで、県庁でデスクワークもせざるなりません。中学を出てからずっと現場の仕事でしたので、最初、ネクタイ締めての職場は戸惑いました。

9

## ネクタイ姿で役所勤め

お雄 昭

役所の仕事の仕方というか、流れもよくわかりませんでした。

世界を知ったことは、貴重な財産となりました。

見えにくい部分です。宮大工の仕事が円滑に進めるために、文化財行政を知ることが大切。特に、私は後に会社をつくりましたので、経営の面でも大変役に立ちました。

たがわ 川 瀧

文化財保存課に配属された時のことです。小学生から文化財について質問の手紙をもらいました。簡単な回答だったので返事を出そうとしたら「書類にして上司のハンコをもらえ」です。

文化財への申請書が役所内をどう流れていくのか、工事予算はどのように決まるのか、報告書はどう書けば通るのか……など。これは現場では、なかなか公務員時代のメリットは、役所の仕事を学んだだけではありません。個人的には、古文書や古建築についての勉強もできました。

私は好奇心旺盛です。で、読みたいと思っていたのですが、漢字の当て字が多いうえ、変体仮名で書かれており判読できません。ちょうど、高校で古文の先生をされていた方が県立図書館勤務になられたので、仕事が終わった土曜日の午後、変体仮名の読み方などを教えてもらいました。

板などが見つかります。また、私の家には江戸時代に書かれた寺社建築の古文書も残されておられます。

若い宮大工にも教えようと思ひ、現代語に訳したものもあります。

る 建 寺

一事が万事こんな具合で、臨機応変に仕事を進める現場とは、えらい違いやと驚いたのですが、役人の

寺の解体修理をする、時々、昔の文字が書かれた

古文書の内容は理解できました。

古文書について、文化庁の文化財建造物修理主任技術者の資格を取らせてもらいました。東京・代々木のオリンピックセンターで50時間の講習を2回受けたのですが、周りは大学院出の人ばかりでした。そこでは、自分が現場で行ってきたことなどをしっかり理論として学べました。

もっとも、規矩術などは講師から「瀧川さんはわかっているから、寝ていいです」と言われましたが……。

を 建 寺

公務員の経験がなければ、今はありません。ありがたく思っております。

公務員の経験がなければ、今はありません。ありがたく思っております。

公務員の経験がなければ、今はありません。ありがたく思っております。

公務員の経験がなければ、今はありません。ありがたく思っております。

公務員の経験がなければ、今はありません。ありがたく思っております。

## 時代の証言者



建築工法が書かれた江戸時代の古文書を手にする瀧川さん

古文書が書かれた

古文書が書かれた

奈良県教育委員会の文化財保存課に勤務していた45歳の時です。

親類で宮大工の松本才治がふらりと県庁に来て「一度、家に寄ってくれ」と言うのです。後日、行ってみると、大量の寺の図面、古文書などを私の目の前に置き、「引き取ってくれ」です。資料は、奈良県だけでなく、京都府や和歌山県、兵庫県、四国の寺の分もありました。

お雄 昭 瀧川 龍

10

# 県庁辞めて跡継ぎに

資料も含まれていました。「跡を継ぐというのですな」と尋ねると、「そうや」といふ答えです。松本、美登路、河井の家とも、子どもはいたのですが、宮大工を継ぐ人がいなかったのです。

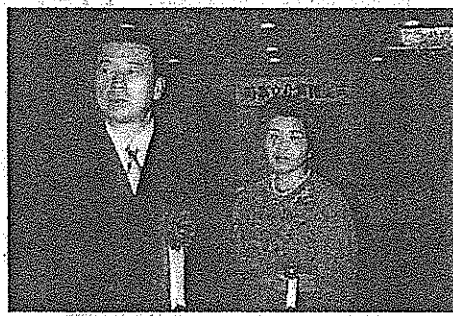
▲工法などが書かれた古文書や、過去の修理や新築の際に作成した図面などは、宮大工にとって重要な資料となる。宮大工は実際の建物やこれらの資料を参

考に寺を建てる。資料を受け取れば、宮大工の仕事に本腰を入れなければなりません。公務員をしながら、という訳にはいきませんわ。ちょうど、現場へ出る機会が減り、物足

りなくなっていた頃でした。元々職人ですから。後任が決まった2年後に公務員を退職しました。1980年(昭和55年)のことです。

「県庁を辞める」と女房の祀子に言いましたら、びっくりしてましたわ。公務員なら安泰ですが、独立したらどうなるかわからんと思ってたんでしょ。まあ、私は公務員時代にいろいろ勉強したんで、やっていける自信はありましたんで。とは言え、住み込みの職人もおり、食事や洗濯など大変だったでしょう。でも、祀子も神戸の家具職人の子です。職人の家がどんなもんかは知っており、よく切り盛りしてくれました。以来、宮大工の数、受ける仕事の量とも徐々に増やしていき、92年には株式会社社にしました。今では40人の宮大工を抱え、常時、5か所ほどの現場を持たせてもらっております。宮大工の家にとって、後継ぎは重要な問題です。幸い、うちは長男の伸が継いでくれ、今は社長をしています。強制はしませんですが、自ら大学で構造建築、大学院で古建築を学んで入社してくれました。親の背中を見て育ってくれたんかなと思います。今思うと、中学を出て宮大工となり、公務員を経て独立するまでの約30年は修業期間でした。その後は、世間にお返しをするために仕事をしています。お返しとは若い宮大工を育てることです。

## 時代の証言者



妻の祀子さん(右)と瀧川さん(1987年、時事文化賞贈呈式で)

3番目の弟の幸男が瀧川工務店の代表となり続けていました。が、職人の数は2、3人でした。そこで、宮大工を8人に増やし、翌年には設計事務所も開設しました。施工だけでなく、設計も含めた大きな仕事も引き受けようと思ったからです。

宮大工育成の大切さは、モンゴルへ行って痛感することになりました。(編集委員 河合敦)

公務員を辞め、設計事務所を開いた1981年(昭和56年)春のことです。

夜なべ仕事に報告書作りをしておりましたら、私の師匠で元奈良大学教授の岡田英男先生からの電話です。当時、岡田先生は奈良国立文化財研究所に勤めていました。

「文化庁の仕事で、モンゴルへ行かないか？」  
「モンゴルってどこですか？」

「チングス・ハーンの家」「ああ、草原の国ですか」「何とものんびり取り

# 時代の証言者

## II

# 二つ返事でモンゴルへ

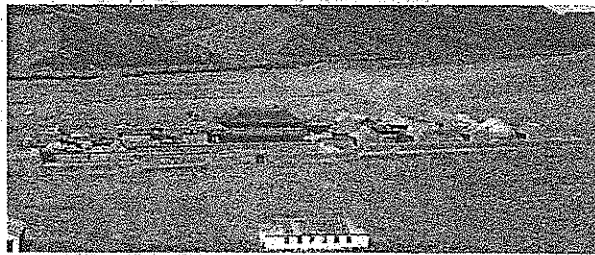
お雄

たがわ川

寺を建てる

でしたが、パスポートを持ったこともない人間に、まさか外国の仕事が来るとは思ってもいませんでしたので、全然ピンと来なかったのです。

何でも、モンゴルにあるアマルバヤスガラントというラマ教(チベット仏教)寺院が荒れ果てているので、コンサルタントとして修理に加わらないかという話のようです。  
▲アマルバヤスガラント



草原の中にたたずむアマルバヤスガラントの伽藍

は、首都ウランバートルから北西380キロにある大寺院。モンゴルが中国(清朝)

の支配下にあった約300年前に建てられた。モンゴル政府は、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の援助を得て78年から修復を行った。

設計事務所を開いたばかりでしたが、好奇心がむくむくとわき上がり、二つ返事で「行きますわ」と言っ

てしまいました。詳しく聞いてみようと、ユネスコのコンサルタントとして、夏の間約1か月、3年間にわたって現地の大工を指導するという内容で

した。宮大工の先輩で、東大寺のストの時、労働組合の支部長をした加藤久雄さ

んが、79年に準備作業に行ったのですが、病気になる私にピンチヒッターに指名されたのです。

その年の8月初旬、成田発のアエロフロート機に乗り、48歳で初めて外国へ向かいました。この後、十数回を150回以上訪れることになるのは、自分でもビックリですわ。

今なら成田ーウランバートルは6時間くらいでしょう。当時は、直行便がなかったため、モスクワで乗り換え、オムスク、イルクーツクで給油し28時間もかかりました。

赤茶けた土地に草木の生えた草原がどこまでも続く。モンゴルの大地は印象的で、今でも思い出します。空港内で牛が悠々と草を食

んでいたのは、さすが遊牧の国だと驚きました。ウランバートルでは、移動はパトカーの先導付き、豪華な夕食会などモンゴル側の大歓迎を受けました。

その後、草原のどこぼこ道を四輪駆動車で2日間走り、アマルバヤスガラント寺院に着きました。緑の草原に赤く映えるアマルバヤスガラントの伽藍は雄大でした。見とれていると、私の宿舎となる移動式住居のゲルに案内されました。直径は6材で中央にストーブ、周りにベッドや机、ソファが置かれています。

最初は草原の生活にわくわくしましたが、いざ、修理を始めると大苦戦が待っていました。  
(編集委員 河合敦)

モンゴルのラマ教(チベット仏教)寺院、アマルバヤスガラントは、大きなお寺です。

伽藍は一辺約250呎のレンガ塼に四方を囲まれ、南大門、鐘樓、正殿など30の木造建物が並びます。遠くから見ると、緑の草原の中に赤茶色の伽藍が映え、本當にきれいです。

ただ、建物に近づくに連れ、荒れ具合が目立ってきます。約300年前の建物ですから、それほど傷んでないはずなのですが、修繕されてないようでした。建物に入って、さらに驚きま

12

## 技術伝授 手取り足取り

した。仏像、仏具が壊されているのです。

モンゴルが、社会主義国になったころ、破壊された寺は、95しか残っておらず、ほとんどが荒れ放題のことでした。

▲中国(清朝)の支配下にあったモンゴルは、1911年の清朝滅亡(辛亥革命)により独立。その後、17年のロシア革命の影響を受け24年にソ連に次ぐ2番

目の社会主義国、モンゴル人民共和国となった。近年では東欧の民主化に続き、

90年に社会主義から大統領制に移行、92年に国名をモンゴル国と改めるなど民主化に踏み出した▼

チベット仏教寺院といえども、基本的な建築構造は日本のお寺と同じです。「何とかなるやろ」と修理に取り掛かると、すぐに「想定外」の問題にぶつかりました。モンゴルの大工たちは、寺院建築の技術をまったく持っていないことがわかったのです。

聞いてみると、現地の大工の主な仕事は、移動式住居のゲルの出入り口のドアや窓周程度だといふので、これは、複雑な寺

院建築はできません。

もっとも、社会が抱寺を手入れせずに来たわけですから、大工に技術がないのは当たり前で、責めるわけにはいきません。宮大工は修理を通して伝統的な技術を体得していくからです。

まずは、日本から送ったドリル、ジャッキなど工具類の説明から始めました。使い方を間違えると大けがをしますからな。ない道具は自分たちで作りました。丸太を角材にするノコギリは、大工4人が3日かかりで製作しました。

モンゴル語に、部材や工法の専門用語がないのにも困りました。仕方がないので日本語の名称で通しました。きつと、寺院建築現場では、日本語が後世に伝わ

っていくでしょうな。

現地の大工たちは、日本の宮大工の技術継承に驚いていました。柱と柱をつなぐ技術の「仕口」について、「1300年前に建てられた法隆寺という寺と同じだ」と説明しましたら、「日本には腐らない木があるのか」と言われましたわ。

夏の間だけでしたが、3年間モンゴルへ通い、何とか大工たちに修理の仕方を指導できたと思います。その後、修理は88年までに完了したと聞きました。

モンゴルで強く感じたことは、技術継承の大切さです。日本も人ごとではありません。以後、若い宮大工の育成が大きな目標になりました。

(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者



自作のノコギリで丸太を加えるモンゴルの大工たち

モンゴルの寺院修理では、仕事だけでなく、生活の面でも大変でした。

初めは面白おかしかった草原のゲル（移動式住居）生活も、1か月続くとさすがにうんざりです。

羊の肉中心の食事や風呂のない生活は、覚悟していたつもりでしたが、なかなかつかうりものでした。気温の差にも参りました。昼は30度で夜は零下5度まで下がり、夏だというのに雪も降りました。風邪を引き、持参した薬で何とか乗り切りました。

モンゴルの蚊も強力です。

13

## 文革で迫害早大卒の通訳

お雄

昭

瀧川

せ。何せ、馬や羊の血を吸っていますので、服の上からでも刺してきます。かゆみは、なかなか引きません。日本人には厳しい環境ですが、悪いことばかりではありません。雄大な風景や満天の星は、感動そのものです。

自然だけでなく、モンゴルの人たちも魅力的です。親切で楽天的な反面、神経の細かいところもあり、よく気がつきませぬ。仲良しお

付き合ひさせてもらい、中でも通訳のウルジーさんと

話しました。半生を聞いて驚きまし

た。ウルジーさんは、民族

中国には、奥さんと8人の子どもがいたそうです。

ウルジーさんは、当時、60代だったでしょう。早稲田大学に留学し、1933年（昭和8年）に卒業した

お父さんは内蒙古の將軍だったそうです。文化大革命の際、迫害を受けてモンゴルへ亡命したので

將軍の息子であることや日本留学などが、批判される理由になったのでしう。

ウルジーさんは、こっそりいろいろなことを教えてくれました。外国人の私が電話をすると盗聴され手紙も検閲されていること。私

た。ウルジーさんは、民族

中国には、奥さんと8人の子どもがいたそうです。

ウルジーさんは、こっそりいろいろなことを教えてくれました。外国人の私が電話をすると盗聴され手紙

も検閲されていること。私がモンゴル人のゲルに入ると住人が調べられることなど……。今のモンゴルでは考えられないことですが、社会主義体制当時は厳しい部分もあったんですね。

ウルジーさんは、十数年前に亡くなったそうです。社会主義国と言えば、寺院修理にはベトナム人の大工が14人も来ていました。

何でも、ベトナム戦争当時、モンゴルが北ベトナムを財政支援したので、「労働力」で返済しているのだという話でした。ここでも政治の影響を垣間見ることになりました。

モンゴルでは宮大工の仕事以外でも、いろいろな考えさせられました。

（編集委員 河合敦）

## 時代の証言者



通訳のウルジーさん（右）と瀧川さん



モンゴルの寺院修理の指導は、3年間行いました。最終年の1983年は、8月下旬に現地入りしました。

翌年以降の作業を説明し、9月22日までに私の仕事は完了しました。首都のウランバートルのホテルに戻り「やれやれ」と思っているところ、日本大使館の人が来て、モスクワ経由の飛行機が運航休止のため、列車で北京へ出て飛行機で帰国してくれと言います。運航休止の理由は「東洋の旅客機が撃墜されたから」だけです。誰が、どこ

# 14 大韓機事件 遠回りの帰国

お雄 昭

お川 瀧

寺を建てる

の旅客機を何で撃墜したのかの説明はなく、キツネにつままれたような感じでした。大韓航空機撃墜事件だと知ったのは数日後です。83年9月1日未明、ニューヨーク発アンカレッジ由ソウル行きの大韓航空機が、サハリン沖で領空侵犯を理由に旧ソ連軍機に撃墜され、日本人28人を含む乗客乗員269人全員が死亡した。西側各国は民間機攻撃を激しく非難、旧ソ連は

## 時代の証言者



（右）と瀧川さんの英語でおしゃべりして過ごしました。でも、夜中にトラルプルです。中国の国境を通過した際がモンゴルから持ち出した本や写真が問題となりまして。私が書類の記

「スパイ飛行」と反論し、東西対立が深刻化した。モンゴルはソ連と関係が深い国だったので、詳しく説明できなかったのかも、いえいえ。いずれにせよ、飛行機が飛ばなくては選択の余地はありません。25日

「スパイ飛行」と反論し、東西対立が深刻化した。モンゴルはソ連と関係が深い国だったので、詳しく説明できなかったのかも、いえいえ。いずれにせよ、飛行機が飛ばなくては選択の余地はありません。25日

に、ウランバートルから北京まで30時間の列車の旅に出発しました。列車はモスクワからウランバートル経由で北京行きでした。車中では、乗り合わせたデンマーク人の30人の団体旅行者と、片言

の英語でおしゃべりして過ごしました。でも、夜中にトラルプルです。中国の国境を通過した際がモンゴルから持ち出した本や写真が問題となりまして。私が書類の記

もつくたかたで、一刻も早く帰りたいかったです。仕方なく、霞が関の文化庁や外務省へ寄ってあいさつしました。帰宅するまで5日かかり大変でしたが、こ

の経験で外国旅行が苦にならなくなりました。言葉はできなくても何とかなるもんですわ。

モンゴルの寺院修理には、後で大きな「ごほうび」もありましたよ。民主化後、モンゴルから1か月の旅行に招待されたんです。

7月11日の革命記念日に合わせて開かれる国民的なお祭り「ナードム」の時期に出かけ、モンゴル相撲や競馬を見学し、まさに大名旅行でした。雌の子馬までプレゼントされ「タキガワ」と名付けました。今頃、2代目、3代目が生まれているかもしれない。

いろいろあったモンゴルは、私にとって特別な国になりました。

（編集委員 河合敦）

モンゴルの寺院修理から  
2年後の1985年、今度  
はカナダの仕事が無い込み  
ました。

カナダ西部の太平洋側の  
プリティッシュコロンビア  
州バンクーバーにあるプリ  
ティッシュコロンビア大学  
に鐘楼を建ててくれないか  
というのです。

同大学には、新渡戸記念  
庭園(新渡戸ガーデン)が  
あり、バンクーバーの日系  
人グループが、人間国宝の  
香取正彦さんが製作された  
「平和の鐘」を寄贈され  
んです。その鐘をつるす鐘  
楼を建設する仕事です。香

15

# カナダに友好の鐘楼

お雄  
あき昭

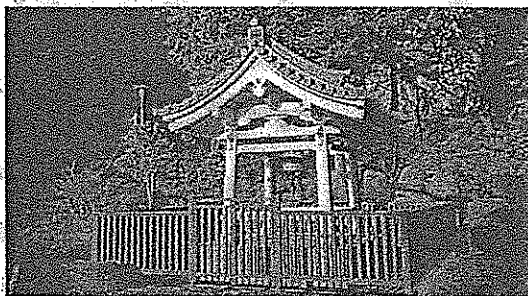
取さんの「平和の鐘」は広  
島市の平和記念公園内にも  
ありますね。

お川  
だき瀧

▲旧5千円札の肖像や、  
『武士道』の著者として知  
られる農学者、教育者、哲  
学者の新渡戸稲造は、33年  
(昭和8年)にカナダで開  
かれた会議に出席した後、  
病に倒れ現地で亡くなっ  
た。新渡戸の功績を記念し、  
35年に在留邦人とバンクー  
バー日本協会が日本庭園を  
プリティッシュコロンビア

大学に寄贈した。広さ約1  
畝の本格的な日本庭園▽  
86年1月に、当時の中曾

## 時代の証言者



プリティッシュコロンビア  
大学内に建てられた鐘楼

根首相がカナダを訪問し、  
除幕式で初鐘を突くので、  
それまでに建てなければい  
けません。平和の鐘は、日  
加友好のシンボルにしたい  
とのことでした。

何で私に声がかかったか  
と言いますと、実は「たま  
たま」ですわ。

この件では、国際交流基  
金が地元桜井市の材木会社  
を通じて宮大工を探してい  
ました。材木会社はカナダ  
材を扱っていたので頼まれ  
たそうです。それを聞いた  
近所の写真屋さんが、私を  
紹介してくれたのです。

このように、たまたま出  
会った仕事ですが、誠心誠  
意やっていたら、いろいろ  
な縁で広がりができるとい  
うことだと思えます。

カナダの鐘楼は、興福寺  
の鐘楼を参考に、日本  
で作りました。高さ4呎の  
鎌倉様式です。一度組み立  
てた後、解体して送りまし  
たので、現地ではそれほど  
苦労しませんでした。

ただ、職人たちを帰国さ  
せた後に「柵も作ってくれ  
」と言われたのは困りまし  
た。仕方がないので、私  
が近くのホームセンターで  
木材を買ってきて柵を作り  
ました。客員教授として大  
学におられた日本人の先生  
が手伝ってくれたのは、あ  
りがたかったです。

除幕式では、中曾根首相  
があいさつで「日本の古都  
奈良から派遣された宮大工

の手によりこのように見事  
に造られました」と言っ  
てくれました。

ほかに印象深い思い出  
があります。大学側から、  
中曾根首相の到着まで2時  
間ほどあるので、学生たち  
に何か話してくれと言わ  
れ、即席の「講義」を行  
いました。宮大工の歴史や仕  
事について話すと、学生か  
ら「どうして親の仕事を手  
どもが継がなくてはいいな  
いのだ」との質問です。

「日本では、技術の継  
承ができていないから、1  
000年以上前の建物が残  
っている。誰かが技術を  
継いでいくことが大切だ。  
ぜひ、古建築を見に来てく  
ださい」と答えておしま  
した。

(編集委員 河合敦)

# 良質な大木求め海外へ

カナダへは、プリティツ シュコロンビア大学に鐘樓を建てた縁で、再び訪れることになりました。今度は建築ではなく、材料に使つ「木探し」です。

鐘樓建築の5年後の1990年、ヘリコプターでバンクーバー島の上空を飛び回り、直径1呎以上のイエローシーダー(カナダ産ヒノキ)を見つけました。今、建設中の興福寺中金堂(奈良市)の部材です。

中金堂は、カナダだけでなくアフリカの木アパ(カメルーン産ケヤキ)も使っています。何せ、直径80

の母屋柱が36本、直径60のひさし柱は30本も必要です。当時は、長野県や山梨県などの山を回り大木を探しましたが、見つかることはできませんでした。

時々、日本の山にも直径1呎の木はあると言われるんですが、原木を製材するわけですから、太さ80の柱を作るには、直径1・5呎の大木が要るんですわ。それに、根元が太いだけではダメで、まっすぐで10



カナダ産のバンクーバー島の巨木と瀧川さんのヒノキ

以上先も同じ太さがなくてはいけません。そういう大木はなかなかありません。そうすな、部材として使われる木の量は、原木の2割くらいです。逆に言えば、部材の5倍の原木が必要なんです。また、太ければどんな木でもいいというもんでもありません。やはり、ヒノキ

ません。建物の部材は、建てられた時代ごとに変わっています。奈良時代のお寺はほとんどヒノキですが、平安時代にはスギが、鎌倉時代はケヤキ、室町以降はマツも使われています。早い時期に太いヒノキはなくなりました。年輪の間隔は1がほどの細さで、髪の毛のようです。1呎の太さに育つのに1000年もかかるということです。幸い、中金堂の木はカナダとカメルーンで見つけることができましたが、最近では環境保護運動の高まりなどから木材輸出を禁止する国が増えており、木の調達は大変です。カメルーンも輸出を禁止しました。台湾にもいいヒノキがあるんですが、輸出は止まっているようです。お寺をこの先、何百年も残そうと思えば、木の問題も考えなければいけません。国も植林に乗り出したようです。将来、日本の山々が、太くて立派な木におおわれるようになってほしいもんです。

▲林野庁は2002年度、作家の故立松和平氏の提唱を受けて歴史的建造物の修復用の木材を供給する「古事の森」制度を創設した。全国10か所の国有林でヒノキ、ケヤキなどの植林が行われている。

(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者

いよいよ5月に東京スカイツリーが開業します。楽しみです。

この「世界一高い塔」には古建築の技術が使われています。五重塔や三重塔などにある心柱です。心柱は塔の中心に立てられておりませんが、建物本体とはつながっておりません。

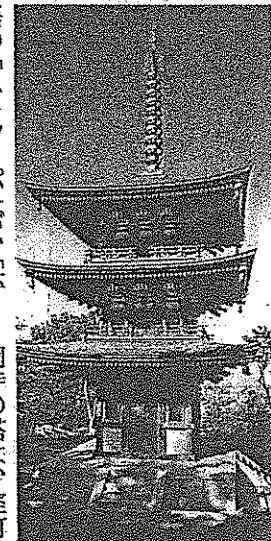
ですから、地震の時、建物と心柱はそれぞれ違う揺れ方をします。それが、地震のエネルギーを相殺し、塔は倒れないのです。地震で五重塔が倒れたという話は聞いたことがありません。東京スカイツリーも、

# 300年耐える宮大工の技

揺れには強いと思いますよ。

▲東京スカイツリーには中心に、直径8センチ、長さ375センチの細長い鉄筋コンクリート製の心柱が立てられている▼

塔は伽藍の中ではスター的な建物です。法隆寺、薬師寺などの塔は本当に美しく、ほればれします。塔は元々、お釈迦様の遺骨の仏舎利を埋葬し盛り土したものです。サンスクリット



瀧川さんが設計、施工した岡寺の三重塔

語の「ストウパー」が、「卒塔婆」と音訳され、さらに「塔」と呼ばれるようになったんです。

私も塔は、新築、修理で10か所ほどかかわりました。中でも思い出深い塔は、

岡寺（奈良県明日香村）の三重塔「三重宝塔」です。▲岡寺は約1300年前、天智天皇の勅願により、義淵僧正が建立した▼

が、実は私が考案した新しい工法を取り入れているんですよ。

地震には強い塔ですが、大風には軒全体が揺らされて倒壊するという弱点があります。そこで、軒先の組み物の部分をボルトで締め付け、心柱を二層、三層の本体部分から鎖でつるすなど、軒周りが強風でも浮き上がらないように工夫したのです。

これまで大きな台風にも耐えてきたので、うまくいったと思っています。

台風と言えば98年、室生寺（奈良県宇陀市）で、大木が強風で五重塔（国宝）の上に倒れ、塔を大破させました。うちの会社が四層、五層を解体して修復しました。

五重塔は明治の修理後、屋根の重みで反りが緩やかになっておりました。そこで、屋根を支える隅木の下にかい物を入れて持ち上げ、屋根の反りを戻しました。その際、使用済みの木型に「屋根の反りを一考してくれ」と書き込んで屋根裏に残しました。これは落書きではありませんよ。今から300年ほどたてば、解体修理が必要になります。その頃には、屋根の反りも緩やかになるでしょう。その際、仕事がやりやすいようにと、未来の宮大工へ向けたメッセージです。

宮大工は300年後を考えています。宮大工の仕事とは、そういうもんです。

（編集委員 河合敦）

## 時代の証言者

# 英展示会で茶室を披露

1992年に個人経営だった工務店と設計事務所を一つにして、株式会社「瀧川寺社建築」を設立しました。このころは、会社経営の大きな節目となった時期でした。

この前年、個別の仕事でも、ちょっと毛色の変わったものを作りました。イベント用の見せ物です。それ、ロンドンでイギリス人に見せるためです。

91年秋から、イギリスで「ジャパンフェスティバル1991」が開かれ、日本を紹介する様々な企画が行われました。その一つ、ロ

## 雄昭 川瀧 寺を建てる

ロンドンのビクトリア・アンド・アルバート博物館を会場にした展示会「ビジョンズ・オブ・ジャパン」で、お寺の柱と茶室を造ったのです。

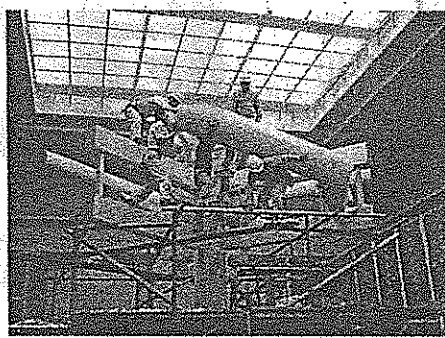
▲ジャパンフェスティバル1991は、日英政府や日本企業などが協力し、91年9月から4か月にわたりイギリス全土で開かれた。歌舞伎公演、大相撲、花火、音楽コンサートなど、日本の伝統芸能から現代の文化

までを紹介した▼

お寺の柱とは、浄土寺浄土堂（国宝、兵庫県小野市）の柱と組み物です。浄土堂は鎌倉時代の建立で、西日が差し込むと阿彌陀如来像の後光のように輝くよう設計されています。

人が亡くなった時、阿彌陀如来によって浄土へ導かれるという来迎の瞬間ですな。私も見たのですが、それは神秘的で美しいものです。

その浄土堂の柱などの一部をイミテーションで造ったんですわ。モーターで組



ロンドンの会場で行われた柱の組み立て作業

す。現地に見学に行っ設計図を描き、イミテーションで再現しました。これも三方の壁がモーターで開き、茶室内部が見られるようになっていました。

何で浄土寺の柱と茶室なのかと言いますと、「中世における『浄土』と近世における『わび』」を表現したそうなんです。建築家の石井和紘さんの設計です。建築家とは、奇抜なアイデアを考えるもんですな。

私がモンゴルの寺院修理やカナダの鐘楼建築をやっていたので、声がかかったよつです。

実は、最初、断ろうかと思っただんです。宮大工からすれば、柱や壁が動く建物を造ることは抵抗がありました。「祈りの場」を造

るのが、宮大工だと思っおられますで……。

でも、イギリスの人たちに日本の伝統建築を知ってもらうことも意味があると面白い直し、最終的には引き受けました。日本で一度組んだ後、部材をばらして送りました。

宮大工8人を連れて出発したのですが、霧で飛行機がロンドンの空港に降りられず、パリに着陸しました。チャーターした小型機でロンドン入りしたことが、トラブルと言えはトラブルでしたが、後は問題なくできました。

ジャパンフェスティバルは好評だったそうで、引き受けてよかったと思っております。

(編集委員 河合敦)

# 時代の証言者

私は、モンゴルやカナダ、イギリスでも仕事をさせてもらいましたが、香港でも寺院建築に参加しているんですよ。

1992年夏のことです。ゼネコンの竹中工務店の知り合いから「香港の尼僧が、奈良の寺院を見学したいそうなので案内してほしい」と電話がありました。引き受けて、法隆寺で待ち合わせになりました。そこに通訳と現れたのが、釈宏勲さんです。当時は40代前半だったでしょうが。この14年後、釈さんは私の仏教の師匠になりました。

19

## 香港に「技術」のお返し

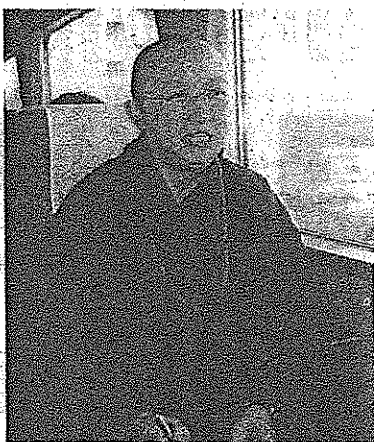
た。その話は改めてさせてもらいます。

釈さんは、中国の仏教協会の紹介で、まず比叡山延暦寺（大津市）を見学したそうです。奈良のお寺も見たいということ、相談を受けた法隆寺が竹中工務店につなぎ、私に声がかかったというわけです。まあ、いろんなところから縁がでるもんですな。

奈良では唐招提寺や薬師寺なども回り、翌日には京

都のお寺も案内しました。

その後、釈さんは毎年のように、お寺巡りのため来日しておりました。ある年は、「日本庭園が見たい」とやってきました。そこで、栗林公園（高松市）、後楽園（岡山市）、毛越寺（岩手県平泉町）、六義園（東京都文京区）などを回りました。



香港の尼僧、釈宏勲さん

こころは、くたくたになりましたが、釈さんはタフでした。そして、真剣に見

るものがわかりました。高

貴な生まれではないかと想像しております。

私は、釈さんがお寺や庭を見学する理由をあえて聞きませんでした。必要なら釈さんの方から話があるだろうと思っていたからです。その時は、出会ってから3年後に訪れました。

「香港に寺院と庭園を造りたい。力を貸してくれ」と言われました。当時、香港は中国への返還を控え、不安を感じてアメリカやカナダへ移住する人が急増していました。釈さんは、香港の人の心の安らぎの場として、お寺を建てたいと思ったそうです。

▲英植民地だった香港は、97年7月に中国に返還された。以後50年間は現制度を維持するとの「一国二

制度」の下、香港特別行政区が発足した▼

そうは言われても、こころも株式会社にした直後で忙しく、いったん断りました。でも、釈さんはあきらめません。当初は鉄筋コンクリート製のお寺を考えていたが、日本の古いお寺が残っているのを見て考えが変わった、木造のお寺を建てたい、と言ったのです。

考えてみれば、日本のお寺の原型はみんな、中国にあるのです。宮大工は、中国から学んだ技術のおかげで、お寺を建てることのできるのです。今度は、中国の人に学んだ技術をお返しする番だと思えました。

協力することになりました。

（編集委員 河合敦）

## 時代の証言者



# 防虫剤までアドバイス

私が建築の協力をすることになった香港の寺院は「志蓮淨苑」と言い、今から80年ほど前に建てられた小さな尼寺でした。

住職の尼僧、釈宏敷さん  
お雄  
あき  
昭  
たき  
がわ  
川  
瀧

尼寺周辺の都市再開発に合わせて、庭園付きの大寺院に再建しようとしたのです。釈さんは香港の政府、財界の支援を得て、お寺の建設費約120億円のほとんどを寄付で賄ったと言います。すごい人やなあと改めて思いました。

## 寺を建てる

国返還前に完成させる予定でした。でも、イギリスの建築関連の法律は、木造建築について厳しくて申請がなかなか認可されず、着工が2年ほど遅れてしまったんですわ。

私の肩書は古建築顧問でした。釈さんは日本のお寺だけでなく、中国の古刹も参考にしました。その一つが、中国の靈山、五台山(山西省)の近くにある南禅寺で、私も見学しました。唐

の時代、日本では奈良時代の782年に建てられた大仏殿は、中国に現存する最古の木造建築です。それ以前のお寺は、歴代の皇帝の廃仏政策などで破壊され、残っていないそうです。日本では南禅寺より古いお寺が残っているのに、中国にそのお手本がないとは驚きましたね。ちょっとさみしく感じました。

いざ、工事が本格化すると思以上上の忙しさでした。私は古建築顧問ということだったんですが、実際は建物のデザインから木、瓦、仏像、避雷針までほとんどすべてを相談されました。

た。細かいことでは、防虫剤選びまでアドバイスしました。細かいことでは、防虫剤選びまでアドバイスしました。避雷針と言えば、最初、ポールを立てると言うので、銅板を屋根に付けるように言いました。ビルならポールで構わないでしょうが、お寺にポールでは景観を損ないます。日本のお寺も、屋根に銅板や銅線の避雷針が遣わせてあります。目立たないように安全対策もしているのですよ。

香港とファックスのやり取りは日常茶飯事で、現地へも100回ほど行きました。来てほしい時は、飛行機の手ケットを送ってくれます。手ケットが届くと「そら、孫悟空のキン斗雲が呼びに来た」と冗談を言ったもんです。日本からは瓦職人や木材会社、造園会社の人も連れて行き、いろいろ意見を言ってもらいました。

香港の志蓮淨苑の伽藍



志蓮淨苑は、2002年に香港の優秀建築大賞に選ばれました。釈さんを始め中国の人たちは本当に喜び、「瀧川のおかげだ」と言ってくれました。

(編集委員 河合敦)

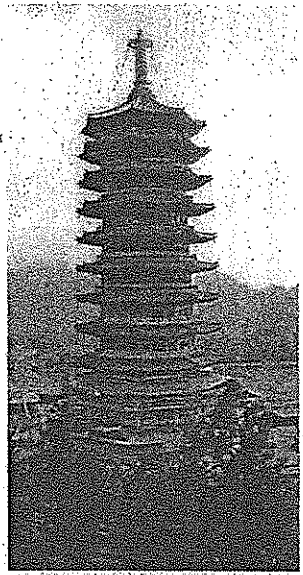
# 中国アルミの九重塔

香港の寺院、志蓮淨苑の再建に協力した私は、中国のお寺の九重塔建設でもアドバイザーを務めました。志蓮淨苑の尼僧、釈宏勲さんから頼まれ、2006年から3年ほどかかわりました。

お雄  
あき昭  
たきがわ川  
瀧

塔のあるお寺は、広東省乳源の雲門山大覚禪寺です。湖南省との境のすぐ近くで、通称は雲門寺で、みんなそう呼んでいます。広州から車で5時間ほどかかります。中国の新幹線「高速鉄道」に乗って行ったこともありません。さすがに速く、1時間で着きま

した。快適な旅でしたが、高速鉄道は去年の夏、浙江省で4人が亡くなる大事故を起こしたため本当にビックリしましたわ。雲門寺は禅宗の道場で、500人ほどの若いお坊さんが修行をしています。そのお寺の高僧の発願で九重塔を建てることになったのですが、工法を聞いて目を丸くしました。木造ではなく、鉄とアルミで建てると言っています。



中国・雲門寺の九重塔

寺を建てる

## 時代の証言者

酸化して錆びる鉄では長持ちしないことはわかりきっています。また、鉄は膨張もします。以前、元興寺（奈良市）の五重塔を解体修理してみると、鉄クギが膨張したため木が割れている部分を見つけました。木同士で組み合わせれば、お互いがなじんで割れることはありません。

中国側は「塔を何年残そうと思っているのか」と聞いてみると、答えは「250年持てばいい」でした。まあ、250年くらいなら鉄とアルミでも持つでしょう。木なら、日本のように1000年以上残すことも可能ですが……。

ただ、現実問題として、中国の山にも塔の建材となる太い木はないようです。ある意味アルミの塔は「苦肉の策」とも言えますな。私は、10回ほど現地へ出かけ、屋根の形や部材の組み方などをアドバイスしました。もちろん、日本ではアルミで造ったことなどありませんので、「木で造る場合はこうする」と教え、中国の木工がアルミを機械で部材に加工して使いました。瓦は日本の瓦を使いました。

完成した九重塔は高さ61尺、八角形で、古色に塗装されている。塔内部の中央に立てられる心柱はなく、代わりにエレベーターが取り付けられている。このアルミの塔は、私に「文化財の保存方法」について考える機会を与えてくれた。

インドやヨーロッパの文化財は、手を加えない「現状保存」が取られています。ほとんどが石でできていますからでしょう。一方、木造の文化財を持つ日本は、修理して元の姿形に近づける「形式保存」です。

木がないのならアルミでも「形式保存」はできます。いずれ、日本も木以外の素材で造らざるを得ない時代が来るかもしれません。そうならないために、今から木を育てることを真剣に考えるべきだと思えます。

(編集委員 河合敦)

おとし、2010年の奈良は平城遷都1300年祭でにぎわいました。遷都祭に合わせて、奈良を訪れた方も多いでしょう。

▲710年、元明天皇は都を飛鳥の藤原京から平城京（奈良市、大和郡山市）に移した。都は一時、恭仁京、難波京などに移されたが再び平城京に戻り、784年に桓武天皇が長岡京（京都府）に遷都するまで、平城京は政治、文化の中心地となった▼

近鉄電車で近鉄奈良駅に着かれた方は、遷都祭のメイン会場となった平城宮跡

# 朱雀門 耐震性を追求

を通った際、車窓から朱雀門と第一次大極殿を一望に

なりました。二つの建物とも、うちの会社が木

完成しました。両方とも巨大建造物ですが、第一次大極殿の方が大きいです。正面が44材、奥行が20材、高さ27材ですから朱雀門の倍

## 雄昭川瀧を建てる寺

朱雀門は平城宮の正門で、大極殿は天皇の即位式や外国使節との面会など、国の最も重要な儀式が行われた中心施設です。いずれも創建当時の姿形はわかりませんが、基壇の発掘調査や薬師寺東塔、法隆寺金堂などを参考にして建てて

あります。朱雀門は1998年、第一次大極殿は2010年に完成しました。両方とも巨大建造物ですが、第一次大極殿の方が大きいです。正面が44材、奥行が20材、高さ27材ですから朱雀門の倍近い大きさです。でも、先に建てた朱雀門の工事は、手探りで進められたので大変でした。

朱雀門の前で寺社建築について話す瀧川さん



朱雀門は、使われた直径70センチの柱18本をはじめ、木材を吉野ヒノキ、木曽ヒノキなど国産材で集めることができました。手間取ったのは、耐震対策でした。

朱雀門の工事は93年に始

まりましたので、2年後の阪神大震災に遭遇しました。揺れでクレーンの滑車が外れましたが、柱などが倒れることもなく、大きな

被害は免れました。

ただ、伝統的な建築技術では建築基準法が求める耐震強度をクリアできない箇所もありました。そこをどうするかで大学、国、県の専門家をはじめみんな頭を悩ませました。

まず、壁です。昔のように土を塗り込むだけでは強度が出ません。そこで、1

辺30センチほどの格子を組んで、中にステンレス製の箱を取り付けることにしました。実物を森林総合研究所（茨城県つくば市）に持ち込み、破壊テストをして問題ないことがわかりました。私もつくばへ通いました。私もつくばへ通いました。

ステンレスの箱が、弁当箱に似ていますので、みんな「弁当箱工法」と呼んでましたよ。

（編集委員 河合敦）

したな。

そして、柱上部と屋根を支える部材の接合部分には、鋼板やボルトを多用しました。もちろん、古建築では金属は使わず、木だけで組みます。金属は腐食するし、ボルトやクギを使う部分の木は、時間がたつと割れてしまうからです。

これらの補強措置で耐震基準はクリアしました。だけど、耐久性という面では不安も残りました。昔のお寺は何百年も持ちました。朱雀門はどうでしょうか。

耐震性と耐久性の両方を満足させることは難しいかもしれません。若い人には、解決方法を見つけてほしいと願っております。

# 時代の証言者

# 仏像 心映し出す鏡

23

最近、若い人の間で仏像ブームらしいですな。本屋でも仏像鑑賞のガイドブックを多く見かけます。

結構なことです。仏さんの「覆い屋」を建てる宮大工にとって、たくさんの方がお寺を訪ねてくれることは、うれしいものです。

ご存じのとおり、奈良には有名な仏像がたくさんあります。東大寺の大仏から興福寺の阿修羅像、法隆寺の百済観音像、中宮寺の菩薩半跏像など、数え上げればざりがありません。奈良の仏像と京都の仏像を見比べると違いがあら

お雄 昭 川 瀧

寺を建てる

すね。一般的に、奈良の仏像からは力強さを感じますが、京都は優しい印象です。飛鳥、天平と平安というそれぞれの時代を持つ文化の違いなのでしよう。

以前、岡寺（奈良県明日香村）三重塔を再建したお話をしましたが、あの塔にも大日如来像が安置されており、有名な仏師、運慶が平安時代末期に作った円成寺（奈良市）の大日如来座像（国宝）を参考にし



岡寺の如意輪観音座像

ら、「怖く見える」と言っています。「舌先三寸で客を手足に取ってるからでしょ」と言ってるやりましたら、「きついな」と言っわ」と笑っていました。

でも、その人はその後、「優しい顔に見えてきた」と言うようになりました。仏像は見る人の心の状態を映し出す鏡のようなものです。美術品として魅了されるのはもちろんですが、それだけでなく何かを持ってますね。

家の近くにある聖林寺（奈良県桜井市）の十一面観音像も好きな仏像です。天平時代に作られた国宝でミロのビーナスと比較されるほどの美しい姿です。この仏像は、明治の廃仏毀釈の時に捨てられたと

## 時代の証言者

て彫られた仏像です。岡寺は、本尊の如意輪観音座像（重要文化財）もいいます。私が一番好きな仏像です。奈良時代末期に作られ、高さが4・85メートルあり土でできた塑像としては日本最大の仏像です。「厄よけの観音様」として有名です。観音像と言えば、すうり

として女性的な姿形が一般的なのですが、この如意輪観音座像はちょっと違いです。重量感があり男性的を感じます。私は、包容力と優しさを感じます。

でも、仏像の印象は人によって全然違うようです。三重塔を建てていた頃、拝観に訪れた大阪のクラブのママと立ち話をしました

も言われましたが、それは事実ではないでしょう。仏像は昔から、疫病や天災地異に苦しめられた人たちが救いを求めた対象だったので。地元の人は大切に守ってきたと思いますよ。

▲哲学者の和辻哲郎は名著『古寺巡礼』の中で、人から聞いた話として、この十一面観音像は路傍に捨てられ、通りかかった聖林寺の住職が拾って運んだ、と書いた。しかし、捨てられたことはなく、神仏分離令を受けて大神神社の神宮寺から聖林寺に移された。

このように人々に敬われ、慕われる仏像の建物を宮大工は造るわけです。真摯な姿勢で臨まなければいけません。

（編集委員 河合敦）

# 「多子相伝」続けていく

24

2003年の初め、高知県立高知工業高校(高知市)の校長先生から電話がありました。外部講師として生徒に授業をしてくれとの依頼でした。

四国と言えば、八十八か所の霊場を巡る四国遍路ですな。古いお寺がたくさんある地域ですので、将来、宮大工となって郷土のお寺を守る生徒が出るかと思つて引き受けました。

△四国遍路は、第一番札所・靈山寺(徳島県)から第八十八番札所・大窪寺(香川県)まで88のお寺を巡礼する。讃岐(香川県)

お雄 昭

たきがわ 川 瀧

寺を建てる

に生まれた空海が修行した地などが霊場とされた▽その年の秋から、計5回授業に出かけ建築科の1、2年生に古建築のいろはから材料、宮大工についてや規矩術まで話しました。生徒にとっては、物珍しい内容だったんでしような。みんな熱心に聞いてくれました。個人的にも、授業の前後に八十八か所霊場を車で巡ることができ、よかったです。

四国で宮大工になる生徒が出れば、と思つて引き受けた出張授業でしたが、意外にもこれまで卒業生4人がうちの会社、瀧川寺社建築に就職しました。若い人がなかなか職人の世界に入りたがらない昨今、歓迎すべきことです。

ただ残念ながら、そのうちの2人は辞めていきました。高知工業高校の卒業生に限らず、採用しても途中で辞めてしまつ若い人は結構います。公務員を退職し独立してからの30年間で、そうですが、100人ほど採用しましたか。北海道から鹿児島まで全国から採り

若い宮大工に声をかける瀧川さん(興福寺、中金堂工事現場で)



や、公務員になり古建築にかかわっている人などいますが、それ以外の人は宮大工の世界が合わなかったようでした。

今の宮大工は、昔のようにな住み込みの弟子ではなく、社会保険もきちんとつけた会社員です。機械化のおかげでつらい作業は減り、休日もちんと取れるので、若い人が働きやすい環境になってきております。

とは言え、冷暖房が利いたオフィスワークと違い、現場は夏暑く、冬は寒いです。刃物を使い、高所の作業もあるので、気を抜いたら取り返しのつかないけがをします。

徒弟社会的に感じる面もあるでしょう。いつの時代

でも、職人の世界は「辛抱の世界」ですから。これは仕方のないことですわ。宮大工は5年、10年やったから一人前だとは言えませんが、修業期間は長いです。でも、自分が建て、修理したお寺が何百年も残り、多くの人に見てもらえるというところは、宮大工にとつて喜びであり誇りです。一人でも多くの若者が、辛抱する期間を耐え、いい宮大工に育つてほしいと思つています。

昔の宮大工は、子ども一人だけに技を教える「一子相伝」でした。しかし、もうそういう時代ではないでしょう。私は他人の子どもも含め「多子相伝」を続けていくと思つています。

(編集委員 河合敦)

## 時代の証言者

# 「曲尺のルーツ」を研究

方で、1尺は30・3センチです。昔も今も、物差しがなければ建築はできません。では、奈良、飛鳥時代の宮大工はどんな物差しを使っていたのでしょうか。正倉院の宝物の中に物差しもあるのですが、儀式用と考えられておられます。朝鮮半島から伝わったとされる高麗尺や、天平尺が使われていたとも言われていますが、よくわかっていないのです。

鈴木さん(右)、深谷さん(中)と魯班尺について話し合う川さん(自宅事務所)

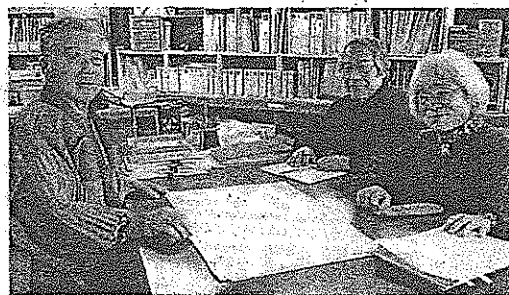
私も来年80歳になりま  
す。基本的に仕事は社員に  
任せておりますが、おかげ  
さまで会社は何とか続いて  
おります。個人的にも20  
07年にもつくり日本大  
賞内閣総理大臣賞、10年に  
は旭日単光章をいただきました。  
もう悠々自適のよう  
に見えるかもしれませんが、  
まだまだ古建築の勉強  
をしようと思っております。  
今取り組んでいるのは大  
工の物差し「曲尺」の研究  
です。直角に曲がった金  
属製の物差しで、中国から  
伝わったものです。曲尺の  
尺とは、長さの単位の呼び

## 雄昭 川瀧 てる 寺を建てる

私は香港や中国で仕事を  
した際に、中国人の木工が  
古い物差しを譲ってもら  
いました。その中に「魯班  
尺」がありました。以前、  
お話ししましたように、魯  
班は2500年前の中国に  
生まれインドに渡って建築  
術を学んだとされ、宮大工  
のルーツと言われている人  
です。その人の名前が付け  
られた物差しです。  
魯班尺の中の文星尺には  
八つに分けられた目盛りと  
吉凶を示す文字が書かれて  
います。吉を表すのは「財、  
義、貞、吉」で、凶は「病、  
離、劫、害」です。これら  
の文字は、地形や水流など

# 時代の証言者

から建物の位置などを決め  
る風水思想から取り入れら  
れたものですね。



建築物を建てる際は「吉」  
に合うように寸法を決めた  
はずだと思い、法隆寺金堂  
の図面を魯班尺で測ってみ  
ました。すると、すべての  
箇所が「吉」の寸法で  
おりました。飛鳥時代には、日本でも  
魯班尺が使われていたの  
ではないか、つまり、魯班  
尺は「一曲尺のルーツ」では  
ないかと思えました。  
11年4月にNHKのテレ  
ビ番組に出演した際、魯班  
尺のことを話しました。す  
ると、日本大学教授で木造  
伝工法を研究しているグ  
ループ「棟梁に学ぶ家」  
代表の深谷基弘さんとメン  
バーの鈴木絃子さんから連  
絡がありました。魯班尺に  
ついて教えてほしいと言っ  
たのです。  
現在、メートルの時代  
ですが、昔は尺の世界でし  
た。古建築の解明に、魯班  
尺の研究は意義のあること  
だと思えます。いずれ、3  
人で研究結果をまとめて発  
表するつもりです。  
まだまだ、やることはい  
っぱいあります。  
▲長さの単位「尺」は、  
1921年の度量衡法改正  
により、経過期間終了後の  
66年から使用が禁止された  
が、曲尺などには単位なし  
の目盛りのみ付けることが  
許されている。(編集委員 河合敦)



# 生き方 正すため仏門に

香港の寺院、志蓮淨苑の再建に協力した縁で、住職の尼僧、釈宏勳さんとはその後もお付き合いさせてもらっております。

多分、2005年頃だったと思います。釈さんが「カウ、カウ」と言っんです。何のことやろと思ったら牛のことでした。カウボーイのカウですな。

釈さんは、牛をどれだけ食べたのかと聞いてきたのでした。5頭くらいかと思つて、5本指を出すと、今度は日本語で「もう、やめなさい」です。肉食をやめなさい、つまり、仏門に入

お雄

瀧川

寺を建てる

りなさいと言ったのです。

実は、公務員を辞め独立した40代後半の頃から、仏門に入ろうかと漠然と考えていたんですわ。宮大工は神仏にかかわる仕事をしています。いたたくお金は、檀家や一般の方からの寄付や、国や県の補助金、つまり税金です。寄付や税金は浄財です。浄財をいただいて仕事をするとはいけません。あまり欲張ってはいけません。



仏門に入る儀式を終えた瀧川さんと師匠の釈さん(右)

会社を維持し、若い宮大工を育成できればいいわけです。仕事だけでなく、生き方そのものも正しくすべきだと思いました。

2006年9月に仏門に入りました。と言つても、頭を剃ってお寺に籠もったというのではないですよ。世俗の生活を続けながらお釈迦さんの弟子になる在家

信者です。

仏門に入る儀式は、自分が再建に協力した志蓮淨苑で行いました。私の師匠となつた釈さんが、「生き物を殺してはいけない」「盗みをしてはいけない」など守るべき五戒を始め、様々な決まり事を問いかけます。一つ一つに「守ります」と返事をするのですが、通

訳をはさんでのやり取りです。2時間くらいかかりましたかな。

お釈迦さんの弟子になつた後は、肉類魚類は一切口にしておりません。酒もやめました。精進料理は体にいいですよ。高血圧が正常に戻りました。以前は暗くなる視力が落ち、文字を読みにくくなつたのですが、そういうこともなくなりました。精進料理で血液がサラサラになり、目の毛細血管にいい影響を与えていると勝手に思っています。お医者さんはどう言つか知りませんが……。

食事には気をつけていますが、一番考えていることは八つの正しい行い「八正道」についてです。これは難しいです。

この連載は編集委員の河合敦が担当しました。次回は22日から「冒険に生きて三浦雄一郎」が始まります。コピーサービス(有料)は読者センター(☎03・3246・2323)へ。

## 時代の証言者